

# 平成27年度りんご技術情報（第2号）

大崎農業改良普及センター  
平成27年6月

## <生育状況>

本年の生育状況は、発芽期から満開期まで平年より早く推移しました。満開期は5月2日で、平年より7日、開花の早かった平成26年と比較しても5日早い状況でした。

開花期間中は気温の高い日が多く、極端な低温や降雨がなかったものの、風の強い日が多く、風がよく当たるほ場では果形の乱れが見られました。6月10日時点の果実径は開花期が早かったことと、開花後に高温が続いたため、過去10年間で最も大きくなっています。

表1 平成27年 生育経過（発芽期～開花終）（調査地点：色麻町）

| 品 種 |     | 発芽期  | 展葉期  | 開花始  | 満開期 | 開花終  |
|-----|-----|------|------|------|-----|------|
| ふじ  | 本 年 | 3/30 | 4/16 | 4/28 | 5/2 | 5/8  |
|     | 平 年 | 4/7  | 4/18 | 5/5  | 5/9 | 5/15 |
|     | 平年差 | -8   | -2   | -7   | -7  | -7   |
| ふじ  | 前 年 | 4/6  | 4/16 | 5/3  | 5/7 | 5/13 |
|     | 前年差 | -7   | ±0   | -5   | -5  | -5   |

※平年差、前年差の-は平年・前年より本年が早いことを表す。

表2 平成27年 果実の肥大状況（調査地点：色麻町）

| 品 種 |                | タテ径          | ヨコ径          |
|-----|----------------|--------------|--------------|
| ふじ  | 本 年(mm)        | 35.2         | 32.8         |
|     | 平 年(mm)<br>平年比 | 27.2<br>129% | 23.5<br>140% |

## <栽培管理>

### ○仕上げ摘果

- 満開60日後まで（色麻町・南山「ふじ」は7月2日）を目安に終了するようにしましょう。

※果実肥大が平年と比較して進んでいるので平年より早めに作業が終わるようにしましょう！

- 標準的な適正着果基準は以下のとおりです。樹勢が強い場合はやや多めに、弱い場合には少なめに加減しましょう

表3 品種別適正着果基準

| 品 種                 | 着果量の目安   | 必要葉枚数        |
|---------------------|----------|--------------|
| つがる, ジョナゴールド, 紅玉    | 3~4頂芽に1果 | 1果あたり45枚~60枚 |
| ふじ, 王林, 陽光, さんざ, 秋映 | 4~5頂芽に1果 | 1果あたり60枚~75枚 |

## <病害虫情報>

### ○発生予察情報(病害虫防除所)

6月5日に宮城県病害虫防除所より発表された発生予察情報です。管内では、これまで高温乾燥が続いた影響で、一部のほ場でハダ二類の発生が見られます。ほ場を見回り適期防除に努めましょう。

|         | 発生時期 | 発生量 | 予報の根拠  |
|---------|------|-----|--|
| 斑点落葉病   | -    | 平年並 | <ul style="list-style-type: none"> <li>巡回調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった( / - )。</li> <li>高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の気温は平年並または高く、降水量は少ない予報となっている。( / ± ~ +, - )</li> </ul>   |
| キンモンホソガ | -    | やや少 | <ul style="list-style-type: none"> <li>巡回調査の結果、発生は確認されなかった( / - )。</li> <li>20~25℃の気温が発生に好適であり、向こう1か月の気温は平年並または高い予報となっている。( / ± ~ + )</li> </ul>   |
| ハダ二類    | -    | やや多 | <ul style="list-style-type: none"> <li>巡回調査の結果、1葉あたり寄生頭数は平年並、発生地点率は平年より高かった。また、寄生種の多くは、ナミハダニであった。( / + )</li> <li>高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の気温は平年並または高く、降水量は少ない予報となっている。( / ± ~ +, + )</li> </ul>                       |
| モモシクイガ  | 平年並  | 平年並 | <ul style="list-style-type: none"> <li>フェロモントラップ調査の結果、平年並に誘殺は確認されていない(5月第6半旬現在)。( ± / )</li> <li>高温が発生に好適であり、向こう1か月の気温は平年並または高い予報となっている。( / ± ~ + )</li> <li>前年の発生量はやや少なかったことから、越冬量はやや少ないと推測される。( / - )</li> </ul> |

※予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期 (+)：遅くなる要因 (±)：平年並になる要因 (-)：早くなる要因 (空欄)：該当せず  
発生量 (+)：多くなる要因 (±)：平年並になる要因 (-)：少なくなる要因 (空欄)：該当せず

### ○果樹カメムシ類のフェロモントラップ調査結果

加美郡りんご協議会の協力を得て、色麻町南山および加美町菜切谷で行っているフェロモントラップ調査では、これまで目立った発生は見られていません。

果樹カメムシ類は、スギヤヒノキの球果など各種樹木の果実を吸汁しながら主に夜間に移動しており、定期的な見回りと防除の必要があります。薬剤防除については近隣の園地と同時防除を行うと効果的であり、殺虫効果の持続期間はネオニコチノイド系、合成ピレスロイド系薬剤で5~10日、有機リン系薬剤で2~3日とされています。